

## 地域社会で育む『輝く女性研究者』支援

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：大分大学（総括責任者：北野 正剛）

### プロジェクトの概要

#### (1) 女性研究者のための具体的な取組

「女性研究者支援サポート室」を設置し、室長に学長補佐をもって充てる。研究助成やロールモデル誌の作成、異なるニーズに合わせたキャリアパス支援、病児保育の先駆的实施、特に医学部では勤務時間短縮や裁量労働制などによる柔軟な勤務体制の整備、男女共同参画社会の推進に向けて地域と連携した啓発活動、女性研究者の管理職への登用と増員に取り組む。

#### (2) 期待される効果

男女の区別のない育休取得促進や代替要員の迅速な補充により女性研究者のキャリア中断を防ぎ、大学及び地域の若手研究者及び研究補助員のデータベース化により、地域と連携した研究を円滑化する。このデータベースを通じて、女子学生、結婚などにより離職した女性医師、更に社会福祉士・教員・建築士などの中で、研究継続に関心を持つ潜在的な女性研究者を積極的に研究の場へ誘導し、女性研究者の裾野を広げる。また、地元自治体や介護・保育等の事業者など広く地域と連携して女性研究者支援体制を構築するほか、女性研究者の積極的採用や管理職等への登用を実現して『輝く女性研究者』のロールモデルを提示し、男女共同参画社会推進に向けた意識改革に貢献する。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
B	b	b	b	b	a

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

#### (2) 評価コメント

病児保育施設の開設、研究補助者の配置、メンター制度の創設、女性研究者データベースの構築、女性教員を増加させるためのポジティブ・アクションの実施等、様々な女性研究者支援・育成の取組を実施し、女性研究者を取り巻く環境整備、意識改革を進めたことは評価できる。しかしながら、女性教員比率、大学院学生の女性比率の目標が達成できておらず、ポジティブ・アクションの成果が十分に表れていない。今後は、目標が達成できなかった要因をよく分析し、改善

を図ることが必要である。

- **目標達成度**：女性研究者を取り巻く環境整備に係る目標は達成したが、女性教員比率、大学院における女子学生比率の目標は達成できていない。今後は、機関の現状を踏まえた適切な数値目標を設定し、目標達成に向け実効性の高いポジティブ・アクションを進めることが必要である。
- **取組**：環境整備、意識改革、女性研究者の裾野拡大等、女性研究者のニーズを踏まえた総合的な取組を実施したことが評価できる。しかしながら、ポジティブ・アクションの成果は十分とは言い難く、女性教員比率が低い工学部に絞った効率的な取組の策定が必要である。
- **システム改革**：メンター制度の創設、女性研究者奨励賞の授与、学会派遣支援等の取組により、女性研究者の科学研究費補助金採択率が大幅に向上しており評価できる。しかしながら、女性教員の増加、上位職階への昇任には繋がっておらず、ミッションコンプライト案の着実な実施が必要である。
- **実施体制**：学長直轄組織として女性研究者サポート室を設置し、学長補佐が室長として事業の推進に当たる実施体制を構築した。しかしながら、部局との連携が十分とは言い難く、今後は学長の更なるリーダーシップの下、全学として女性教員の活躍促進に取り組むことが必要である。
- **実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：女性研究者サポート室を男女共同参画推進室に改編し体制を強化するとともに、ミッションコンプライト案の設定により目標を明確化し、十分な予算を確保しており、取組の今後の継続性・発展性が期待できる。